

〈書 評〉

大川嗣雄（横浜市立大学リハビリテーション科科长）・他 著

名著「車いす」出版を祝して

天児民和（九大名誉教授）

車椅子は歩行困難な人達には不可欠で、此車椅子を利用すると社会復帰も容易となる。然し車椅子の詳しい解説書が今回大川先生等の御努力で出版せられた事は慶賀すべきと思うのは私一人ではない。私の半世紀を越える医師としての歩みを顧ると、昭和初期には九州炭坑では脊髄損傷が多発した。そのため此方面の研究を命ぜられ苦勞していたが、戦争が激しくなり私も召集を受けた大阪陸軍病院を経て東京第一陸軍病院の脊髄損傷病棟の主任を命ぜられた。それは昭和16年の事であったが患者は80名以上収容せられてい

たが車椅子は10台しかなく、其上廊下にも所々に段差があって充分な車椅子訓練も出来ず又私自身も車椅子に対する充分な知識もなく、参考にする書物もなかった。戦後東京オリンピックの後で車椅子スポーツ大会が英国に留学していた故中村裕氏を通じてグットマン氏より車椅子スポーツ、即パラリンピックの開催を指導せられて遂に厚生省も支援してくれて代々木で開催したが、其時英国より来た人達が上手に車椅子を乗り廻しているのを見て日本の車椅子訓練が進歩して来た。その後英国のストークマンデビル病院の車椅子ス

ポーツ大会に日航機によりロンドンに向ったが、機内中央の通路が狭く車椅子が通れないので便所まで抱えて行ったが、その後日航も小型の車椅子を造ってくれた。さて競技が始るとバスケットボールでは車の衝突事故が少なくなき車椅子が故障することが少なくなかった欧州の車椅子は部品が共通なものが多いので修理も早く出来たが、日本の製品は共通部品が少なく修理に長時間を要したのでグットマン先生から注意せられた事もあった。そんな事を思い出しながら此著書を読むと此書物により日本の車椅子利用は向上して来るものと思うと共に著者の諸先生に感謝致します。

（B5横判，頁158，図89，写真185，1987，¥3,700，〒300，医学書院 刊）